

4-4

中学校・詩の学習指導試論

教材集「アンソロジー」作りから「私の詩選集」作りまで

お茶の水女子大学附属中学校 益地 憲一

中学校において詩を指導する主なねらいは、詩に親しませ、生徒の言語感覚を磨き、感性を豊かにするところにある。しかし、そのねらいは押し付けられた鑑賞や知識的な理解からは達成できない。生徒自らが多くの詩と出会い、詩の受けとめかたを体得していく中で達成されていく。そのように考えるとき、教師は生徒ができるだけだけ多様な詩に出会い、詩の読みとりかたを学びとっていく機会を多く持つことができるようにしてやるべきであろう。

しかし、現実には、中学校3か年の教科書に載せられている詩はごくわずかであり、その作品的・教材的特性も限られている。したがって、それだけで詩を指導するねらいを十分に達成することは不可能である。教科書以外に、生徒の身近に適切な作品を多く準備しておくことや、それらを通して詩に親しませる機会を持たせるようにしむけていくことが必要である。

こうした考え方にたって、昭和50年に副読本「中学生のためのアンソロジー」を作成し、改訂を加えながら今日まで活用してきている。さらに、副読本作成にさいし、詩の特性に応じた学習指導のありかたをも併せ考え、実践してきた。

本発表においては、「中学生のためのアンソロジー」の作成にあたり考えた詩教材の編成的研究（詩教材選択の過程）を中心に、詩の学習指導のありかたと、学習の発展としての生徒自身の手による「私の詩選集」作りまでをも含めた、中学校における詩の学習指導のありかたを示したい。